

令和6年度 第1回義務教育問題研究協議会における協議の概要

開催日時 令和6年5月28日（火） 午前9時30分から午前11時10分

場 所 愛知県庁西庁舎 教育委員会室

協議内容 ○生涯を通じていつでも学び続けることができる人物像について

○「自立した学習者」を育てるための教育活動と教師の支援・指導について

<協議の記録>（・意見）

生涯を通じていつでも学び続けることができる人物像について

<なぜ「学び続ける」ことが求められているのか>

- ・ PISA2022の調査で、学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、との質問に対する回答で日本は37カ国中34位であった。
- ・ 教師が教えすぎ、指示を出しすぎであるため、自由な時間があっても、自ら学習を構築していくという気持ちや自信がないという結果につながっている。
- ・ 全国学力学習状況調査の学校質問紙では、60%以上の学校が、端末をほぼ毎日活用していると回答している。しかし、考えをまとめ、発表・表現する場面や、生徒同士がやりとりする場面では、毎日活用している学校は12%から16%にまで落ちる。
- ・ 働き方が教育、就労、定年という3ステージ制ではなく、学び直しをして、ステージが多岐にわたる方もいる。学びの多様性を尊重して進めていくことが重要である。
- ・ 会社では、PDCAサイクルが部署ごとに確立されて、従業員が目標に向かって計画的に取り組むことができるようになった。課長や管理職が教え過ぎず、正しい方向へ誘導するというシステムが企業運営の中ではトレンドとして受け入れられている。

<学び続ける人物はどのような資質・能力を備えているのか>

- ・ 他者とコミュニケーションが取れ、調整できる力は大切である。
- ・ 困難さを乗り越えようと挑戦するときに力は伸びるので、挑戦することは必要である。
- ・ 自分は何がしたいのか、何になりたいのか、どんな社会にしたいのか、明確なビジョンをもって、楽しみながら、自分のゴールに向かって進んでいけることは大切である。
- ・ 振り返ることは、自分と対話すること、自分と他者との関わりを見つめ直すこと、自分と学ぶ対象とを結びつけることなどにつながるため大切である。
- ・ 課題や問題にあたったときに、どう解決していくか、課題解決を積み重ねていくことが重要である。

<その他>

- ・ これまでの日本型学校教育の弱みといったことについては、学校現場でまさに課題となっている点であり、自立した学習者を育てる教育活動の在り方を取り上げるのは妥当である。
- ・ 地域の方と子供が関わり、一緒に体験活動をしていくことで、子供が地域のことが分かるとともに、コミュニケーション力も育つため、地域との関わりは重要である。
- ・ 誰もが同じ世界、同じ分野で活躍できるものではないし、その必要もない。社会がうまく回っているということは、それぞれの人物がそれぞれの場で活躍しているからである。

「自立した学習者」を育てるための教育活動と教師の支援・指導について

<「自立した学習者」を育てるためのめざす児童生徒像>

- ・ 学校では、ティーチングからコーチングへの転換や、同調圧力からの脱却に取り組み、どうしたら、子供一人一人のよさを引き出して、楽しい、学びたい、学び続けようと思う子供を育てていけるのかを考えていくことが必要である。
- ・ 子供たちが必要に応じて仲間や大人の力を借り、あるいは自分の力を貸すといったような「緩やかな協働性」の中で、一人一人が自立して学ぶといった人物像をめざしていくことも考えられる。
- ・ 目の前の課題について、考えて解決する力を育てることが一番求められている能力だと考える。そのために、学習指導要領にある思考力や判断力、表現力を育てることが必要である。
- ・ 子供たちが主体的に計画を立て、実行していくためには、目標や夢をもつことが一番大切である。

<教育活動と教師の支援・指導>

- ・ 子供たちが自分に合った学び方を身に付けるためには、学びの主導権を子供に委ねる教師のアプローチが必要であり、そのためには、授業過程の複線化は避けられない。
- ・ 子供の発達段階や教科の特性に応じて、ティーチングやコーチングを教育課程の中でバランスよく配置することが必要である。
- ・ 子供を中心に据えて指導することが大切である。自分でできる子供はどんどん進んでいける環境（単元内自由進度学習）も必要である。
- ・ 子供たちに見通しをもたせることが大事である。授業や単元で見通しをもって取り組めることが主体的な学びにつながる。
- ・ 教師が子供の問題意識や困りごとに寄り添い、子供たちが解決していく手段をフォローしていくことを意識することが、子供を自立した学習者へと育てるために必要である。
- ・ 「学びの中に遊び、遊びの中に学び」がある。
- ・ これまでは、教師の都合に子供たちを合わせて授業を進めてきた傾向がある。これが画一的な教育につながるため、これからは、子供に教師が合わせる大切である。ここで学びなさい、これで学びなさいではなくて、子供たちがいろいろな学び方を知って、自分に最適な学び方、個別最適な学びを進めていくことが必要である。
- ・ 誰もが活躍できる社会を作っていくためには、子供に自分が得意なことや、自分のやりたいことを見つけさせることが必要である。

<その他>

- ・ 通知表をPDCAの視点から見ると、「D」の部分は書かれているので、非常に分かりやすいが、P・C・Aは分かりにくい。
- ・ 中途半端に自由進度学習を取り入れ、子供たちに力がつかない、必要なことを学ばせてもらえないことがあると、義務教育としては心配な部分がある。
- ・ 教育活動を改善していくときに、一番大変なのは教師である。今の教師は学生時代に教えられて学び、教える立場になっている。急にコーチングだと感覚的に言われても、すごく大変だと思う。そのため、ティーチングとコーチングを併用していく形で、取組を進めていくことが、教師がストレスなく取り組めるのではないかを考える。
- ・ 教育活動を改善していくことは、教師にとって大変なことである。そのため、様々な研修で効果的な授業形態等を伝えていくことは大事であるが、最終的には、教師の指導観、教育観、授業観を変換していくことが重要である。how to はやるけど、本質は変わらないという事例が少なくない。